

主体的に学び続ける児童を育成する授業の創造

～総合的な学習の時間を中心としたカリキュラム・マネジメントの実現を目指して～

熊本市立楠小学校 5年部

要約

社会の急激な変化により、他者と協働して課題を解決していくこと、情報を再構成して新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することが求められている。その中で、総合的な学習の時間の果たす役割は大きい。教科横断的な学習を行い、社会や地域につながる課題設定・解決を行うことを通して、より主体的に課題を解決し、自己の生き方を考えようとする姿が見えてきた。この実践をするには、教師の姿勢が問われる。本研究を通して、子どもと共に教師も新たな学び・挑戦を行うことで、主体的に学び続ける児童が育成されることが明らかになった。

〈キーワード〉 総合的な学習の時間、カリキュラム・マネジメント、課題設定の工夫、協働的な学び、社会や地域とつながる教育

1 はじめに

本校では、総合的な学習の時間の各学年のテーマを設定し、毎年、学年担任が主となり授業を展開していた。しかし、本校は、1学年1学級もしくは2学級と学級数が少なく、学年の教員だけで、総合的な学習の時間を展開するには経験や知識が十分でないこともあった。昨年度は、例年取り組んできた内容を周りの教員に聞きながら実践するにとどまっていた。今求められている教科横断的なカリキュラム編成や地域に開かれた取組を行うには、人的・組織的な関わりが必要だと強く感じたところである。

そこで、今年度は、5学年で指導体制を工夫しながら総合的な学習の時を展開していくこととした。5学年は、単学級で担任は初任3年目の教諭である。そこで、これまで通常の学級を担任したことのある特別支援学級の担任と教頭とがサブメンバーとして、さらにその他の先生方にも協力を得ながら、環境をテーマに学習を展開することとした。この学習を展開するに当たって心がけたのは、教科横断的なカリキュラム編成、子どもが本気で学びたくなる課題設定、そして地域に開かれた学習、あわせて協働的な学習となる場の工夫ができないかということである。これらのことを念頭に置きながら、今年度の4月から9月上旬まで実践してきたものをまとめてみた。

2 主題設定の理由

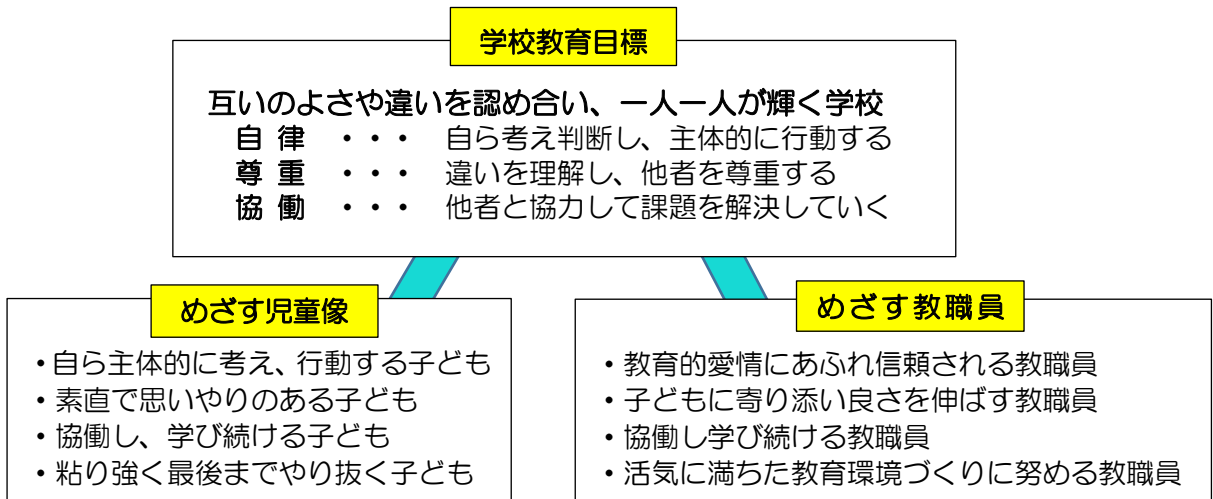
(1) 今日の課題から

近年、生産年齢人口の減少、グローバル化の進展や絶え間ない技術革新等により、社会構造や雇用環境は大きく急速に変化しており、さらには、世界的な感染症の拡大など、まさに予測困難な時代を迎えている。このような時代にあって、子供たちが様々な変化に積極的に向き合い、他者と協働して課題を解決していくことや、様々な情報を見極め知識の概念的な理解を実現し情報を再構成するなどして新たな価値につなげていくこと、複雑な状況変化の中で目的を再構築することができるようにすることが求められている。

そこで、探究的な見方・考え方を働かせ、教科横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成することを目標としている総合的な学習の時間は、これからの時代においてますます重要な役割を果たすものと考え、中心的に取り組むこととした。

(2) 学校教育目標から

本校の教育目標・目指す児童像及び教師像は次の通りである。



児童が自ら考え主体的に考え行動し、他者を尊重しながら協力して課題を解決する力は、日々の授業実践を通して培うことが大切である。教科の特性を生かした指導・支援と共に教科の枠を超え、教科横断的な視点で学習を積み重ね、児童自らが主体的に考え協力して課題を解決する価値のある課題設定が必要である。そのために、児童の実態を把握し、職員同士が協働・挑戦しながら学び続けていくことが、主体的に学び続ける児童の育成につながり、本校教育目標の実現に迫ると考えた。

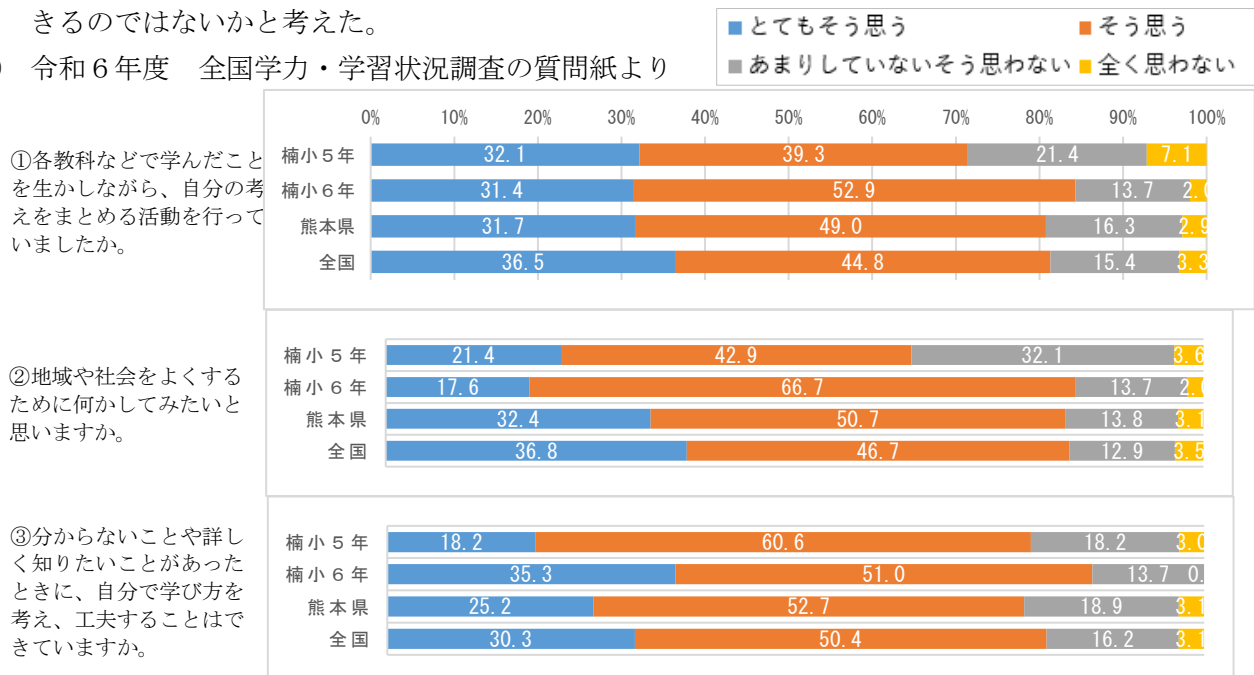
(3) 本校の実態から

① 昨年度の市学調の結果より ()は全国との差

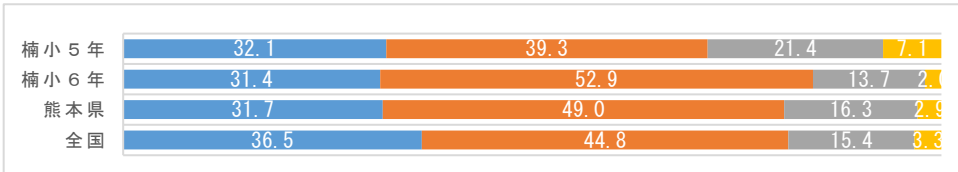
	教科総合	基礎	応用	知識・技能	思考・判断・表現
国語	59.4(-1.6)	62.4(-2.6)	46.0(3.4)	64.9(-3.6)	55.6(-0.2)
算数	68.7(-5.4)	70.2(-6.0)	61.9(-2.9)	68.9(-4.8)	67.7(2.7)

学力調査の結果をしてみると、国語・算数の力が十分に身につけているとは言えない。教科の学力を育成するためにも、主体的な学び、協働的な学びは欠かせない。そこで、総合的な学習の時間を中心に、児童が主体的に学ぶ喜び、楽しさを感じ、それらを各教科と結び付けることができるのではないかと考えた。

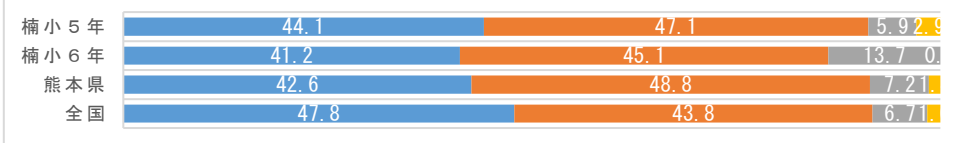
② 令和6年度 全国学力・学習状況調査の質問紙より



④総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。



⑤授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか。



質問紙調査より、地域との関連や各教科で学んだことを生かしていく姿勢、情報収集活用能力等に課題があることがわかった。そこで、地域にアクションを起こすことができるような課題設定を意識し、情報収集・活用を意識した場の工夫を行うと、児童が主体的に学び始めると考えた。

3 研究の仮説

総合的な学習の時間において、子どもが本気で学ぶような課題設定、協働的な学びとなるような場の設定を行うとともにカリキュラムを工夫し、地域とつながる探究的な学びを継続していけば、児童は主体的に学び続けるだろう。

4 研究の視点

【視点1】連続性のある学びとなるようなカリキュラム編成の工夫

- ア 総合的な学習の時間の全体計画や年間の指導計画の見直し
- イ 各教科との関連を図ったカリキュラムの編成

【視点2】子どもが本気で学びたいような課題設定の工夫

- ア 社会や地域につながるリアルな課題
- イ 自らの学びを振り返り次の学びへとつなげる工夫

【視点3】協働的な学習となるような場の工夫

- ア ICTの効果的な活用
- イ 仲間と学ぶ意識づくり

5 研究の構想

学校教育目標：互いのよさや違いを認め合い、一人一人が輝く学校

主体的に学び続ける児童を育成する授業の創造
～総合的な学習の時間を中心としたカリキュラム・マネジメントの実現を目指して～

総合的な学習の時間において、子どもが本気で学ぶような課題設定、協働的な学びとなるような場の設定を行うとともにカリキュラムを工夫し、地域とつながる探究的な学びを継続していけば、児童は主体的に学び続けるだろう。

子どもが本気で学びたいような
課題設定の工夫

協働的な学習となるような場の工夫

連続性のある学びとなるようなカリキュラム編成の工夫

児童の実態

6 研究の実際

(1) 視点1 連続性のある学びとなるようなカリキュラム編成の工夫

ア 総合的な学習の時間の全体計画や年間の指導計画の見直し

今回は、5年の「私たちの環境を守ろう！」に焦点を当てて、実践をまとめる。全体計画の探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力をどのように育てていくか関係職員で協力しながら取り組んでいった。今回は、特に各教科との関連（教科横断的なカリキュラム・マネジメント）、指導方法と組織体制の工夫に焦点を当てる。

令和6年度 総合的な学習の時間全体計画

48 熊本市立楠小学校

《法的根拠》 ・日本国憲法 ・教育基本法 ・学校教育法 ・学習指導要領 ・熊本市教育振興基本計画	《学校教育目標》 互いのよさや違いを認め合い、一人一人が輝く学校 自律…自ら考え判断し、主体的に行動する 尊重…違いを理解し、他者を尊重する 協働…他者と協力して課題を解決していく	《児童の実態》 ・明るく素直である。 ・課題学習には意欲的に取り組むが、自主的に行動する力が不足気味である。 ・自信を持って自分の思いや考えを伝えたり、表現したりする力が十分ではない。
	【総合的な学習の時間の目標】 探究的な見方・考え方を働かせ、地域の人、もの、ことに関わる総合的な学習を通して、目的や根拠を明らかにしながら課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようにするために、以下の資質・能力を育成する。 (1) 地域の人、もの、ことに関わる探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付けるとともに、地域の特徴やよさに気付く。 (2) 地域の人、もの、ことの中から問いを見出し、その解決に向けて仮説を立てたり、調べて得た情報を基に考えたりする力を身に付けるとともに、考えたことを、根拠を明らかにしてまとめ・表現する力を身に付ける。 (3) 地域の人、もの、ことについての探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら自ら進んで地域社会に関わろうとする態度を育てる。	《地域の実態》 ・ボランティア、奉仕活動が盛んで、地域連携で行われ、協力的である。 ・基本的な生活習慣の定着を目指し、学校、地域、家庭が連携している。

【各学校において定める内容】

学年		3年	4年	5年	6年
目標を実現するにふさわしい探究課題		くすのき博士になろう (地域のよさとそれを守る人々の願いや努力)	めざせ！心のパリアフリー (地域の環境のよさや問題点とUDの視点)	私たちの環境を守ろう！ 自分たちにできることを発信して (地域の自然とそれに携わる人々の思いや願い)	輝け！いのち 今、わたしたちにできること (防災、平和、自分の未来)
探究課題の解決を通して育成を目指す具体的な資質・能力	知識	公共施設、商店、公園、それに関わる人など、地域のよさやすばらしさが分かる。	身の回りにおける環境問題及び高齢者や障がいのある人の生活と思いや願いが分かる。	身近な自然の存在とそのよさ、環境問題と自分たちの生活とのかかわりが分かる。	防災や平和に対する人々の思いや願い、将来への思いや願いを実現するための方法が分かる。
	技能	情報を比較・分類するなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。	環境問題やUDに対する自分たちの思いの変容は、地域の環境のよさや問題・UDの視点について探究的に学んだことによる成果であると気付く。	情報を比較・分類・関連付けるなど、探究の過程に応じた技能を身に付けている。	防災、平和、自分の未来について考えた行動をとるなど、自分の考えや行動の変容は、それらについて探究的に学んだことによる成果であると気付く。
	探究的な学習の良さの理解	地域を大切にしたいという自分たちの思いの変容は、地域のよさや人々の思いについて探究的に学んだことによる成果であると感じる。	環境問題やUDに対する自分たちの思いの変容は、地域の環境のよさや問題・UDの視点について探究的に学んだことによる成果であると気付く。	環境問題に配慮するなど、自分の考えや行動の変容は、地域の自然やそれに携わる人々の思いについて探究的に学んだことによる成果であると気付く。	防災、平和、自分の未来について考えた行動をとるなど、自分の考えや行動の変容は、それらについて探究的に学んだことによる成果であると気付く。
	課題の設定	自分の関心から地域についての課題を設定し、解決方法を考えて追究している。		地域や人々等の思いをふまえて課題を設定し、解決方法や手順を考え、見通しを持って追究している。	
	情報の収集	目的に応じた対象を決め、自分たちの身近なところから情報を集めている。		目的に応じて手段を選択し、情報を収集したり、必要な情報を選んだりしている。	
	整理・分析	問題状況における事実や関係を、事象を比較したり分類したり、数量などで客観的に比較したりして、特徴を見付けている。		視点を明確にして問題状況における事実や関係と、整理した情報を関連付けたり、多面的に考察したりして理解し、多様な情報の中にある特徴を見付けている。	
	まとめ・表現	相手に応じてわかりやすくまとめ、表現している。		相手や目的、意図に応じ、工夫してまとめ、表現している。	
学びに向かう力、人間性等	課題解決に向け、目的意識をもって意欲的に取り組んでいる。また、身近な人と力を合わせて探究活動に取り組んでいる。学習したことをふり返り、生活に生かそうとしている。		課題意識をもって、自分なりの方法を工夫しながら探究活動に取り組んでいる。課題解決に向けて、他者と協働して探究活動に取り組む、その大切さに気付いている。学習したことやその方法をふり返り、学習や生活に生かそうとしている。		
自己理解・他者理解	自分のよさや自分ができることに気付いている。自分と異なる意見や考えがあることに気付く、相手の立場を理解する。		探究活動を通して、自分の生活を見直し、自分の特徴を理解しようとしている。異なる意見や他者の考えを受け入れ尊重しながら、探究活動に取り組んでいる。		
将来展望・社会参画	自分と地域とのつながりに気付く、地域の活動に参加しようとしている。		探究活動を通して、自分と実生活・実社会の問題の解決に取り組もうとする。		

教科等を越えた全ての学習の基盤となる資質・能力

情報活用能力	言語能力
--------	------

【各教科等との関連】

国語	社会	算数	理科	生活科	音楽
・自分の思いや考えが相手に伝わるように表現する力 ・相手が伝えたい事柄を正確に理解する力など 家庭 ・日常生活に必要な知識及び技能 ・家庭生活をよりよくしようと工夫する力と実践的な態度など	・統計、資料、年表等を読み取り活用する力 ・観察や調査した事柄を関連付ける力など 家庭 ・つくりだす喜び・形や色、材料などから発想する力 ・材料や用具を用いる力など	・目的に応じて表やグラフで表現する力 ・筋道を立てて考える力など 体育 ・健康で安全な生活を営む実践力 ・たくましい心身など	・科学的に考え、問題を解決する力 ・見通しを持って観察、実験をする力など 外国語活動 ・異なる言語や文化を理解する力 ・積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度など	・自分自身や自分の生活について新たな気付きをする力 ・生活上必要な習慣や技能など 特別の教科 道徳 ・課題解決に向けて主体的に活動するための道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度など	・音楽によって養われる感性や情操 ・感じたことを歌や楽器で表現する力など 特別活動 ・団体の仕方 ・集団をよりよくしていくこうとする意欲及び態度 ・自発的、自主的に活動を進める力など

《学習活動》
 ・地域を生かした学習内容の設定
 ・探究的な学習過程（課題設定、情報収集、整理分析、まとめ、表現）
 ・人・もの・ことを生かした価値ある体験活動

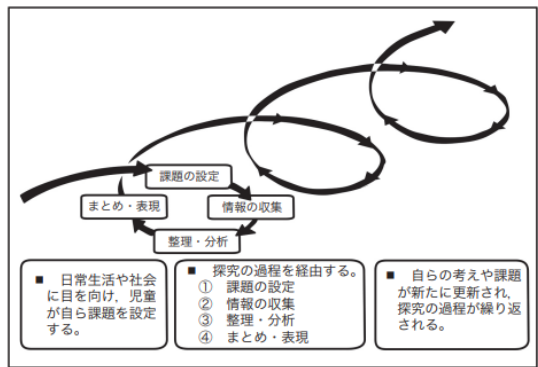
《指導方法》
 ・見通しを持った学習過程の設定
 ・協働的な学習を導く場の設定
 ・言語活動の充実

《学習の評価》
 ・育てようとする資質や能力についての評価の観点を設定する。
 ・多様な評価（観察・シート・ポートフォリオ・自己評価・相互評価・他者評価）

《指導体制》
 ・地域の施設等関係機関への協力依頼
 ・家庭や地域の人々への説明と交流
 ・学年部および担任外教職員によるIT.

探究的な学習における4つのプロセス（課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現）を通して、自分自身で取捨・選択し、整理し、既にもっている知識や体験と結び付けながら、構造化し、身に付けていくものである。こうした過程を経ることにより、獲得された知識は、実社会・実生活における様々な課題の解決に活用可能な生きて働く知識、すなわち概念が形成される。総合的な学習の時間では、各教科等で習得した概念を実生活の課題解決に活用することを通して、それらが統合され、より一般化されることにより、汎用的に活用できる概念を形成することができる。そこで、身近な課題を設定し、児童が主体的に学びに向かうことができるよう計画を立てていった。

探究的な学習における児童の学習の姿



【文部科学省】

〔 5 〕 年生 総合的な学習の時間 年間指導計画

熊本市楠小学校校

月	4	5	6	7	8・9	10	11	12	1	2	3
学年テーマ	「 私たちの環境を守ろう! ~自分たちができることを発信して~ 」										
目標	1 生活と環境の関わりや環境の大切さが分かる。【知識及び技能】 2 気付きの中から課題を設定し、調べたことや見学したことをまとめて表現することができる。【思考力、判断力、表現力等】 3 課題解決に向け、友達と力を合わせて意欲的に活動することを通して、生活と環境の関わりや環境の大切さに気付くことができる。【学びに向かう力、人間性等】										
課題追究活動 (70)	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 30%;"> <p>「水俣に学ぼう」(20)</p> <p>【単元目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 水俣での出来事に目を向け、人々の取り組みや環境の大切さが分かる。 <p>【知識及び技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> 見学したことについて班で協力しながらまとめ報告することができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 課題解決に向け、友達と協働しながら環境を守る大切さに気付くことができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>【主な学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 「公害」について知る。 「正直に生きる」を視聴し学習を深める。 現地学習を行う。 学んだことをまとめ、発表する。 </div> <div style="width: 30%;"> <p>「環境問題について考えよう」(35)</p> <p>【単元目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 環境問題について調べ、環境問題の原因やその対策について分かる。 <p>【知識及び技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> 気付きの中から課題を設定し、調べたことをまとめて表現することができる。 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 課題の解決に向け、友達と力を合わせて意欲的に活動することを通して、生活と環境の関わりや環境の大切さに気付くことができる。 <p>【学びに向かう力、人間性等】</p> <p>【主な学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 環境問題には、どんなものがあるか考え、出し合う。 環境問題が悪化する原因やその対策について調べる。 調べたことを統計グラフやプレゼンテーションにまとめ、発表し、感想を交流する。 学んだことから、今の自分たちにできることを考え、出し合う。 </div> <div style="width: 30%;"> <p>「バケツで稲を育てよう」(15)</p> <p>【単元目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 米作りを通して、関わる人や地域よさや素晴らしいさが分かる。【知識及び技能】 <p>【知識及び技能】</p> <ol style="list-style-type: none"> 気付きの中から課題を設定し、観察したことをまとめて表現することができる。【思考、判断、表現力等】 <p>【思考力、判断力、表現力等】</p> <ol style="list-style-type: none"> 課題の解決に向け、友達と力を合わせて意欲的に活動することを通して、身近な環境の大切さに気付くことができる。【学びに向かう力、人間性等】 <p>【主な学習活動】</p> <ol style="list-style-type: none"> 食生活を振り返り、身近な米との関係に気付く。 米について調べたいことを考え、テーマに分かれて調べる。 調べたことをまとめ、発表する。 </div> </div>										
他教科等との関連	(国語) 要旨をまとめ、自分の考えを伝えよう (社会) 未来を支える食料生産 (理科) 植物の発芽と成長 (道徳) 一ふみ十年 (国語) 問題を解決するために話し合う (理科) 台風と防災 (家庭科) 物を生かして住みやすく (社会) 未来をつくり出す工業生産 (道徳) 宇宙から見たもの (国語) 資料を見て考えたことを話そう (社会) 国土の自然とともに生きる (算数) 割合のグラフ わくわくSDG's (道徳) 三十八徳年の命										

イ 各教科との関連を図ったカリキュラムの編成

新単元	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
行事	入学式										卒業式	
総合	水俣に学ぼう	バケツ稲を育てよう	水俣に学ぼう	環境問題を解決しよう	環境問題を解決しよう	バケツ稲を育てよう	環境問題を解決しよう	環境問題を解決しよう	環境問題を解決しよう	環境問題を解決しよう	環境問題を解決しよう	環境問題を解決しよう
国語	1 人物の心	2 語りかけ	3 語りかけ	4 語りかけ	5 語りかけ	6 語りかけ	7 語りかけ	8 語りかけ	9 語りかけ	10 語りかけ	11 語りかけ	12 語りかけ
社会	1 世界の中心	2 世界の中心	3 世界の中心	4 世界の中心	5 世界の中心	6 世界の中心	7 世界の中心	8 世界の中心	9 世界の中心	10 世界の中心	11 世界の中心	12 世界の中心
算数	1 数と小数	2 体積	3 小分け算	4 小分け算	5 小分け算	6 割合	7 割合	8 割合	9 割合	10 割合	11 割合	12 割合
理科	1 天気と気候	2 生命のつながり	3 生命のつながり	4 生命のつながり	5 生命のつながり	6 生命のつながり	7 生命のつながり	8 生命のつながり	9 生命のつながり	10 生命のつながり	11 生命のつながり	12 生命のつながり
音楽	1 心をこめて	2 心をこめて	3 心をこめて	4 心をこめて	5 心をこめて	6 心をこめて	7 心をこめて	8 心をこめて	9 心をこめて	10 心をこめて	11 心をこめて	12 心をこめて
図工	1 季節を感じて	2 季節を感じて	3 季節を感じて	4 季節を感じて	5 季節を感じて	6 季節を感じて	7 季節を感じて	8 季節を感じて	9 季節を感じて	10 季節を感じて	11 季節を感じて	12 季節を感じて
家庭科	1 私の生活	2 私の生活	3 私の生活	4 私の生活	5 私の生活	6 私の生活	7 私の生活	8 私の生活	9 私の生活	10 私の生活	11 私の生活	12 私の生活
体育	1 身体を動かす	2 身体を動かす	3 身体を動かす	4 身体を動かす	5 身体を動かす	6 身体を動かす	7 身体を動かす	8 身体を動かす	9 身体を動かす	10 身体を動かす	11 身体を動かす	12 身体を動かす
外国語	1 Hello, everyone.	2 When is your birthday?	3 What subjects do you like?	4 He can run fast. She can do kendo.	5 My hero is my brother.	6 Where is the library?	7 What would you like?	8 This is my Town.	9 You can do it!	10 You can do it!	11 You can do it!	12 You can do it!
注	1 運動したあ	2 運動したあ	3 運動したあ	4 運動したあ	5 運動したあ	6 運動したあ	7 運動したあ	8 運動したあ	9 運動したあ	10 運動したあ	11 運動したあ	12 運動したあ

【文溪堂 てんまる2024】

(2) 第5学年 総合「水俣に学ぶ肥後っ子教室」の実践

① 単元の概要

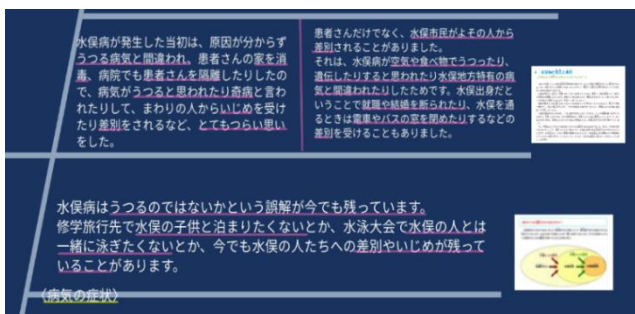
「水俣に学ぶ肥後っ子教室」は水俣病の歴史や環境への取組を調べ体験することを通して、差別や偏見を許さない心情や態度、環境保全や環境問題の解決に意欲的に関わろうとする態度や能力を育成することを目的としている。環境問題は規模が大きく、子どもたちにとって身近に感じることが難しい題材である。そのような大きな課題を自分事として捉えることができるよう工夫する必要がある。また、水俣の現地学習やその後の振り返りの時数を含めると事前学習の時数が不足してしまうことも多々ある。ICTを活用しながら合科的な学びを実施し、必要な知識や課題をもって現地学習を行えるように工夫する必要がある。

② 視点1 連続性のある学びとなるようなカリキュラム編成の工夫

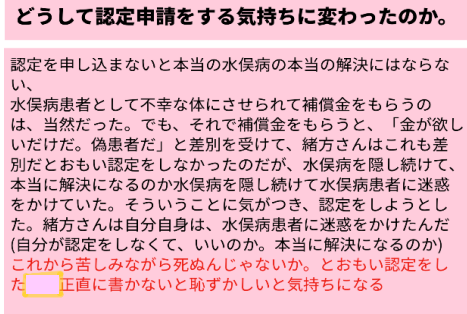
イ 各教科との関連の洗い出しを行い、カリキュラムの編成

水俣病は、人間の営みが原因で引き起こされた公害である。これは3学期配当の社会「環境をともに守る」の学習とつながりが深い。この学習では北九州市の公害の原因や公害防止の取組を扱う。この単元を1学期に行い、水俣病の原因や症状、社会背景の学習を進めるようにした。【図1】また、水俣で起きた差別や偏見、語り部の生い立ちを通じた人権学習を自分事として学び、これからの生き方に生かしてほしいと考え、道徳の時間として人権学習を進めてくこととした。【図2】

③ 視点2 子どもが本気で学ぶような課題設定の工夫



【図1 水俣病についてまとめたもの】

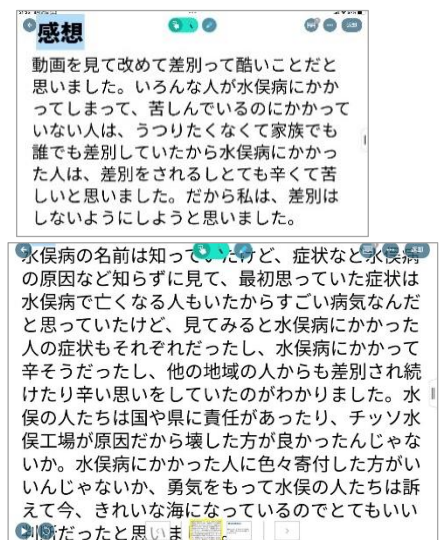


【図2 人権学習の記録】

イ 自らの学びを振り返り次の学びへとつなげる工夫

「水俣病」という難しいテーマでも子どもたちが関心を持ちやすくなるように「みなまたの木」という絵本を活用した。【図3】絵本なので少ない情報しか得ることができないため、子どもたちも多くの問いをもつことができた。その後、水俣病についての動画を視聴することで、水俣病についての知識や現状を捉えるようにした。映像や音声で説明があるため、水俣病問題を捉えやすくなっている。自分自身の学びを残す意味で、感想や疑問を振り返りとして記入した。

【図4】それらをもとに、互いがどのようなことを考え、疑問をもったのかを共有した。このことにより次時への学びにつながっていった。それと共に、互いの意見を知り、学び合おうとする姿勢が生まれてくることを意図して進めていった。



【図4 感想と疑問】



【図3 絵本「みなまたの木」】

④ 視点3 協働的な学習となるような場の工夫

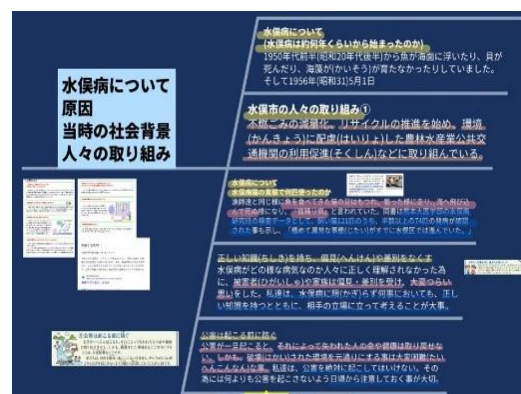
ア ICTの効果的な活用

動画「正直に生きる」と絵本「みなまたの木」から学んだことをもとに、子どもたちの問いを出し合い、集約していった。その内容を大きく分類すると「人への被害」「環境への被害」「原因や取組」「偏見・差別」の4つであった。【図5】この4つの内容について、今後各自で調べていくことにした。この4点に整理して示したことで、様々な事柄が関係する水俣病の問題を解決するために調べる内容が一目でわかるようになり、子どもたちの意欲が高まった。



【図5 問いの分類】

水俣病問題について一人一人の意識が高まったところで、各内容について時間をかけてじっくりと調べ、共有ノートに保存するようになった。その際、必要な資料等も一緒に貼り付けることを促した。そのことにより、友達が何を調べているのか見ることができ、自然と互いに質問し合いながらまとめることができた。【図6】



【図6 調べている内容】

その後、これらの内容について、学んだことを互いに発表し合い、理解を深めていった。一人一人が3つの内容についてじっくりと調べ、互いの学びを共有しているからこそ、偏見や差別についてもその当時の人々に思いを寄せ、考えていくことができた。「どうしてたたかい続けたのか」という問いに対しても、一人一人の考えを述べることができた。【図7】

さらに、自分自身の経験と重ね合わせて考えていった。偏見や差別、うそをつくことはいけないとわかっている、うそをついてしまい、相手が嫌だと思ってしまう自分と重ね合わせ、身近に偏見や差別のもとになる気持ちが潜んでいることにも気づき、自分事として捉えることができた児童が増えた。【図8】

大切な人、たくさんの方が亡くなっているのに諦められなかったから

自分の家族、友人、みじかなひとなど、今まで仲良くしてくれた人が、急に水俣病でいなくなってしまう、怒りがあった。しかも、金も少ないので、せめてそれぐらいのお金をください、チツソに責任があるからもう少しお金を出せ、という気持ちだと思います

【図7 「どうして戦い続けたのか」という問いについて】

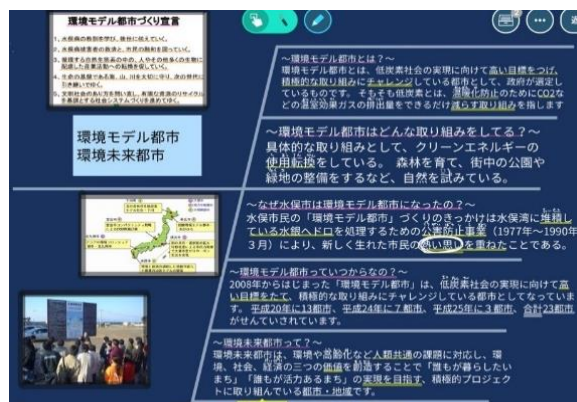
相手と喧嘩した時、先生との話し合いになった時自分が先にちよかいをしたのに相手が先にしたと嘘をついてしまった事がありました。そうゆう経験を昔やってしまったから次からこうしたら相手が嫌だと先のこと考える事を考えていきたい。

【図8 自分事として捉えている姿】

このような学習を通して、現在の水俣についても知りたいという思いを強くもつようになっていった。水俣のもやい直し【図9】や環境都市としての水俣【図10】についても学びを深めていった。また、「水俣に学ぶ肥後っ子教室」での学びをこれからの日々にかしたいと振り返る児童もいた。【図11】



【図9 水俣のもやい直し】



【図10 環境都市水俣】

○語り部の永本賢二さんのお話を聞いたときに、今の永本さんの気持ちを考えていたので、水俣に行った後もお話が心に残っていた。これからも大切な話は自分の意見もちながら聞いていきたい。

【図11 「水俣に学ぶ肥後っ子教室」の振り返り】

(3) 第5学年 総合「私たちにできるリサイクル活動」の実践

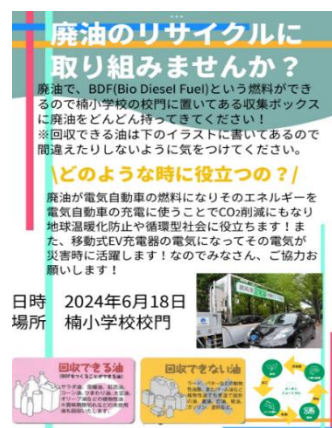
① 単元の概要

水俣の学習を進めていく中で、熊本市が「わくわく油田プロジェクト」を行っていることを知った。これは、家庭や企業の使用済みてんぷら油を回収し、化石燃料の代替として再利用することでCO₂の排出量を削減する取組である。さらに、2つのリサイクル活動を追加した。1つは「つなげるーぱ! ノート回収プロジェクト」である。KOKUYO (株) が行っており、ノートを再生紙ではなく新しいノートにリサイクルするという活動である。ノートを何度も繰り返しリサイクルできるため、新たなノートの生産に使用する森林資源を削減することができる。もう1つは「ニチバン巻心ECOプロジェクト」である。ニチバン (株) が行っており、テープなどの巻き芯をダンボールにリサイクルする活動である。企業が行っている活動であることや学級外への働きかけが必要であることから、子どもたちが自ら考え動き出す教材になると考えた。

② 視点1 連続性のある学びとなるようなカリキュラム編成の工夫

イ 各教科との関連を図ったカリキュラムの編成

リサイクル活動を進める中で、「多く集めるためには、校内だけではなく地域の人たちにも協力をお願いしたい。」という声が上がった。そのためには、ポスターを作成し告知するという意見が各チームから上がってきた。回収日や回収方法、留意点など伝えるべきことはたくさんあったが、見た目にとだわりすぎる子もいた。そこで、国語「分かりやすく伝えよう」で学習した「伝えたいことを整理して、読み手に伝わるようにまとめる力」を生かしてポスターを作るように進めた。【図12】



【図12 完成したポスター】

③ 視点2 子どもが本気で学ぶような課題設定の工夫

ア 地域や社会につながるリアルな課題

熊本市の小学校が「わくわく油田プロジェクト」に取り組んでいること、全国の小学校で実施されていることを子どもたちに紹介すると、「自分たちもやってみたい。」という思いを強く持つようになった。再生資源を回収するために校内での呼びかけだけを考えた【図13】が、「近所のお店や公共施設に廃油回収や巻き芯回収をお願いしたい」「中学校にもノートの回収をお願いしたい」と地域とつながろうとする声が子どもたちから多く上がった。学校で完結する課題ではなく社会につながっているからこそ、実践方法の選択肢が多く子どもたちの意欲を高めた。【図14】【図15】【図16】



【図13 児童への呼びかけ】



【図14 公共施設で回収した巻き芯】【図15 中学校からいただいたノート】【図16 廃油回収の様子】

「つなげる一ぱ！ノート回収プロジェクト」を企画している KOKUYO (株) のノート再生【図17】や熊本市水保全課の熊本の地下水【図18】、東部クリーンセンターの熊本市のごみ問題【図19】に関する出前授業を取り入れた。子どもたちが行っているリサイクル活動が何に役立つのかを再確認させることで意欲を高めることができた。自分たちが行っているリサイクル活動に関する話であり、世界規模の環境問題から身近な熊本市の問題という流れで出前授業を実施したため、どの学習にも主体的に参加することができた。また、企業や役所など社会的団体も積極的に取り組んでいることを知ることで自分たちの活動に自信をもち、自己有用感を高めることができた。【図20】



【図17 KOKUYOの出前授業】【図18 地下水に関する出前授業】【図19 ごみに関する出前授業】

- 最初は、リサイクルとは大きなタンスや服だと思っていたけど、他にも日常で使っているものが多くリサイクルされていることを知った。ごみ回収業者の方が分別をする理由を話してくださったことがあったので、これからは、ごみの分別をきちんとしたい。
- 使い終わったノートを回収してノートの一部の原料として再利用することで、ごみを減らすことができる。さらに、木から紙を作る時と比べて再生紙から紙を作るほうが二酸化炭素の排出量や必要な水を減らすことにつながることを学んだ。これから、マイバックを持って行きごみを減らす活動をしていきたい。

【図20 「私たちにできるリサイクル活動」の振り返り】

④ 視点3 協働的な学習となるような場の工夫

イ 仲間と共に学んでいるという意識づくり

地域に伝える係、校内に伝える係、チラシを作る係などプロジェクトごとにチームを作り、リーダーが中心となり活動を進めた。共同作業を行いやすくするために、ロイロノートの共有ノートでプロジェクトの計画を立てるようにした。【図21】プロジェクトを10人以上で構成していたため、共有ノートは途中経過を報告しやすく、協働的な活動を促した。共有ノートを見れば、係の進行具合を見ることができ、子どもたちの仲間意識を高めた。遅れが見られる係を手伝ったりアドバイスをしたりしながら進める姿もあり、共に学ぶという意識の高まりを感じた。



【図21 共有ノートを使った計画】

リサイクル活動を通して、協働的に学ぶことの大切さや自分たちの活動を地域に発信する楽しさを実感した子もいた。【図22】

○賑やかで優しい雰囲気ของกลุ่มで分担しながら活動することができた。廃油回収の呼びかけをしてみても、自分たちの頑張りが周りに認められるんだと感じた。この学習を通してポジティブになれた。

【図22 「私たちにできるリサイクル活動」の振り返り】

(4) 第5学年 総合「環境問題について統計グラフで伝えよう」の実践

① 単元の概要

子ども達が学んだことをまとめて表現する手段として、統計グラフコンクールに出展することにした。これは、日常の体験や事柄、収集した資料を統計的にグラフで表現する技能を育成し、統計の正しい見方・考え方の普及向上を図るために開催されている小学生から大人までが参加できるコンクールである。

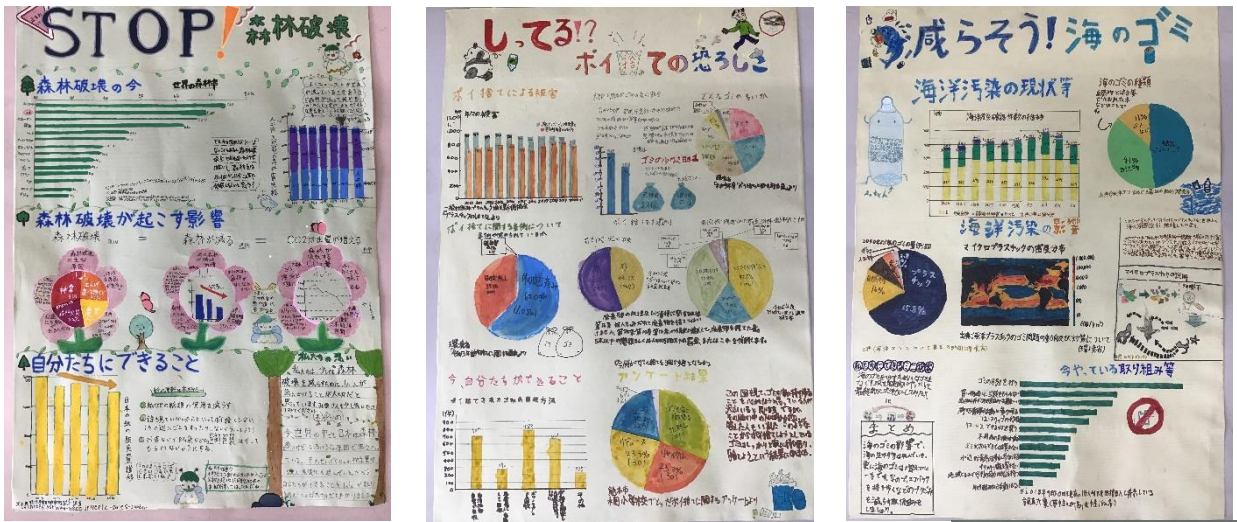
グラフは、調べたいと思ったことの得られた情報を視覚的に分かりやすく伝えることができる。また、グラフはいくつもの種類があり、それぞれの特徴があるため目的に合ったグラフを使うことで、説明力が高まり、相手に伝わりやすくなる。

統計グラフに表す活動は、「とことん調べよう！」という意欲を掻き立てるだけでなく、情報を集める力、調べたことをどうまとめるか考える力、どのグラフを使うとより相手に伝わりやすいかと複数ある情報の中からより適切な情報を選択する力、そしてグラフから読み取ったことを生かす力が培われる。そして、これまでの学びを振り返ると共に、事実を基に自分の主張をまとめるという経験を積ませることができる。「これらの力を身につけてほしい。」、また、「総合でこれまで学んだことを学校内だけでなく外へ発表してほしい。」と考え、取り組むことを決めた。

② 視点1 連続性のある学びとなるようなカリキュラム編成の工夫

イ 各教科との関連を図ったカリキュラムの編成

統計やグラフは算数との関わりが大きい。棒グラフや折れ線グラフ、帯グラフ、円グラフなど3年次から系統的に学習が進められている。5年次では、円グラフと帯グラフの学習が3学期に予定されている。グラフの読み取り方や数値から割合を求め、グラフで表現する方法を前倒して学習しながら、円グラフをかいていった。【図23】



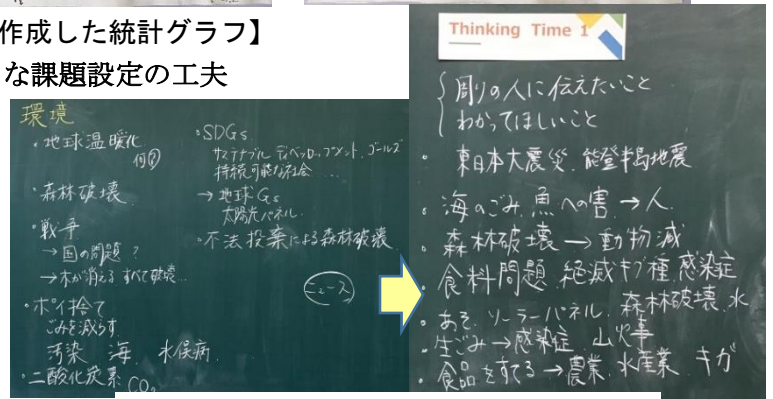
【図 2 3 作成した統計グラフ】

③ 視点 2 子どもが本気で学びたいくなるような課題設定の工夫

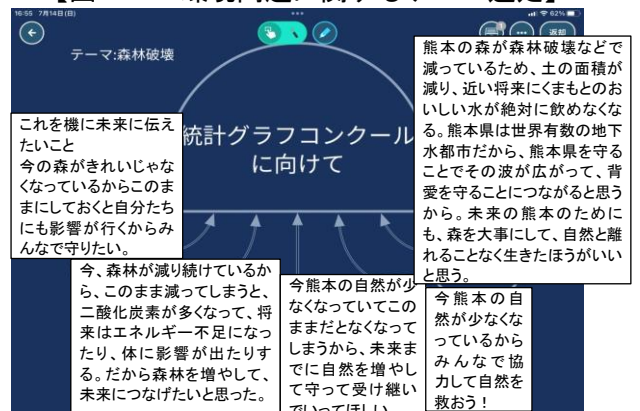
ア 社会や地域につながるリアルな課題

「環境」から考えられる課題を学級全体でイメージしていった。一つの言葉から、多くのテーマが出され、様々な視点から捉えられることを学んだ。さらに、1つのテーマをもとに、どのようなことを伝えたいか（ミニ提案をしよう!）と題して、各班でテーマについて検索しながら、具体的内容を絞っていった。【図 2 4】【図 2 5】これらをまとめて「コンクールに出展する。」と伝えた時、子どもの目の色が変わった。「学級内の発表で終わるのではなく、学校外でも審査される!」とわくわくと同時に緊張感も走った。相手意識を持つことで、「分かりやすく伝えたい」という目的が明確化した。さらに、真実を伝えることの大切さに気づき、調べた情報や出典元が信用できるか最新の資料はないか、深く調べていった。【図 2 6】いつも以上に子どもたちの本気の姿を見ることができた。

ある時、「京都の資料はあるけど、他の県のものはないかな?」と調べ学習をしていた子が呟いた。「京都のグラフを使えばいいのでは?」と伝えると、「それでは、京都の一人当たりのゴミの排出量が少ないという凄さを伝えられない。それに、他の県のものに気になる。」と言う。調べたことをただ伝えるのではなく、京都と他の県を比較することでより印象付けて伝えようと工夫していることに驚いた。また、ポイ捨てに関する条例の有無を調べていた子が、その後、罰則



【図 2 4 環境問題に関するテーマ選定】



【図 2 5 統計グラフで伝えたいこと】



【図 2 6 タブレットで検索した記録】

規定や罰則内容に関心を寄せ、タブレットで検索していた。疑問について調べて理解すると、さらに疑問が湧いてきて、もっと深くもっと広く知りたいと感じている。学びは繋がり、留まることを知らないということ子ども達に教えてもらった。まさに、探究的な学習における児童の学習の姿そのものだった。

さらに、自分たちの周りの人に現状を知ってもらい「今、自分たちに何ができるか」を考えてほしい、という思いから子どもたちはアンケートを作った。今の自分を振り返る項目やこれからできる範囲で自分のできることを考えてもらう項目など、答えやすいように工夫していた。【図27】誰に言われた訳でもないのに意欲的にアンケートを作る子どもの姿、深く広く調べようとする姿、これこそ「主体的に学ぶ」ことだと感じた。

- Q1 この中で出来そうな地球温暖化対策を選択してください（複数選択）
- シャワーを出す時間を短くする
 - エアコンではなく出来るだけ工夫して扇風機にする
(出来るだけエアコンを控える)
 - 短い距離は自転車屋徒歩にする
 - 出来るだけ季節に合わせた服を着る (例) 冬は暖かい服を着て、無駄にエアコンなどを使わない
 - 家では出来るだけ同じ部屋で過ごす (エアコンを無駄にしない)
 - 冷めないうち、温かいうちにお風呂に入る
 - その他

【図27 アンケートの一例】

イ 自ら学びを振り返り次の学びへとつなげる工夫

自分たちのグループの現状を知り、自分がこれから何をしなければならないのかを把握するために、授業の終わりには毎回振り返りの時間を設けた。そして、他のグループの進み具合を確認したり新たな視点をもったりするために、いくつかのグループが発表するという中間発表を行ってきた。【図28】この時間を設けることで、自分たちの成果を確認するだけでなく、他のグループの良いところを自分たちにも生かそうとする効果が見られた。また、「次時では何に取り組もうか。」と役割分担をすぐに始める子どもの姿も見られるようになった。この授業終わりの中間発表があったから、子どもたちは最後まで意欲を失わずに活動に取り組めたのだと思う。



【図28 中間発表の様子】

④ 視点3 協働的な学習となるような場の工夫

イ 仲間と共に学ぶ意識づくり

統計グラフの作品を作るためには、構成を考えたり情報を集めたりと作業が多岐にわたるため、役割分担をして進める必要がある。最初こそ、することが多く難しいため、とまどっていた子どもたちであったが、回を重ねるごとにやり方を掴み、自分たちで担当を分担し助け合って活動するようになった。「僕と一緒に〇〇を調べよう。」「〇〇さんはここの担当をお願いします。」「これが分からないんだけど、どこを見たらいい。」とお互いを信頼し合って、生き生きと取り組んでいた。今までより難易度が高い課題だったからこそ、子ども達は一人で解決しようとせず、協働的に試行錯誤をしながら作業を進めていった。【図29】



【図29 分担・協働している様子】

5年1組では、6人の特別支援学級の子どもたちが交流及び共同学習を行なっている。統計グラフコンクールへの出展は、この6人にとってもかなりハードルが高い課題であったが、それぞれの子が関心のある環境問題についてのグループに入り、自分の任された得意な活動に取り組んだ。特別支援学級の担任も近くで見守り、支援を行なっていたので困

ったことがあると担任へ助けを求めていた。しかし、担任がいつでも6人の近くにいることはできないため、周りの友達と協力していく場面が多々あった。そんな時、「次、何したらいい？教えて。」と思い切ってグループの子に声を掛けていた支援学級の子がいた。元々、友達に声を掛けることが苦手な子だったので、この環境がその子を成長させたことに気が付いた。得意なことを生かしながら、困ったら友達に相談し、責任をもって取り組むことができた。通常の学級の子も特別支援学級の子も隔たりなく、共に協力し合う姿が見られた。【図30】子どもたちの振り返りでは、友達と仕事を分担しながら協力して学習することの楽しさについて書かれていることが多かった。全員が役割をもち、その責任を果たしたという達成感のおかげで彼らの自己有用感が高まった。【図31】



【図30 協力する様子】

- 始めは難しかったけど、だんだんと協力できるようになって嬉しかったです。役割分担を少しずつできるようになりました。これからは、グループで活動するときは自分の意見を伝えながら、協力していきたいです。
- 自分がやることを決めて活動することを、これからの学習でも生かしていきたい。
- グループのみんなで協力してできた。もっとこういう活動を増やしていきたい。
- みんなで協力していい経験になった。発表の仕方やグラフのかき方などいろいろなことを学んだ。あまり関わりのなかった友達とも仲良くする機会ができてよかった。これから、いろいろな学びながら友達とも仲が深まるような学びをしたい。

【図31 「統計グラフで私たちにできることを考えよう」の振り返り】

この学習を進める上では、教師はアドバイザーに徹する。そのためには、教師自身が、各班が設定するテーマに沿った内容について学んでいないとアドバイスができない。どのような課題があり、それを訴えるためにはどのようなデータが必要かを事前学習する必要がある。また、2人の教師は、統計グラフに初めての挑戦であったので、留意点を経験者から学びながら子どもたちに指導していく。新しいことに教師自らが挑戦し、学ぶ姿勢を子どもたちに見せることで、子どもたち自身の意欲も掻き立てられていった。【図32】

また、班内での情報収集・共有が必要なことから、ロイロノートの共有ノートを中心に活用しながら学習を進めていった。子どもたちが収集した情報は多くあり、収集した情報を再度確認できるための工夫を随所に施しながら、担任は指示をしていった。効果的なICTの活用について実感を伴って学ぶことができたのは、教師や児童が協働で授業を展開しているからである。ICTをどのように効果的に活用するかは、一人の教師のアイデアよりも複数人で集まって、授業で活用した方法を具体的に共有することで、次の授業（教科）への活用につながると感じた。

さらに、各班に余裕をもってアドバイザーとして関わるからこそ、日頃見えない子どもの様子や実態をつかむことができる。意外な一面で得意・不得意が見え、班内で課題解決をする際、自分の意見と仲間の意見を調整していく姿を見て取れる。そのような姿を見ることで、新たな児童理解につながり、児童との距離感を縮めることができた。

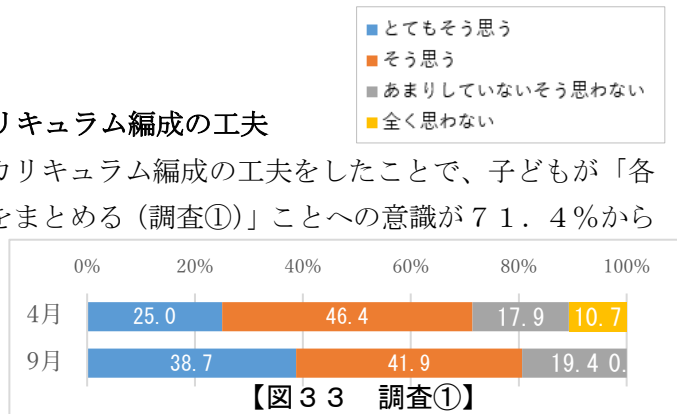


【図32 各班へのアドバイス】

6 研究のまとめ

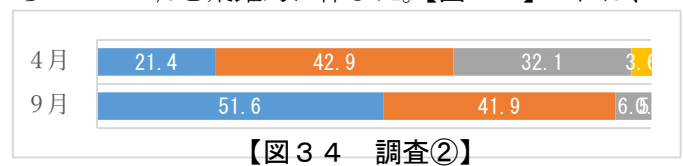
(1) 視点1 連続性のある学びとなるようなカリキュラム編成の工夫

各教科との関連を洗い出し、教科横断的なカリキュラム編成の工夫をしたことで、子どもが「各教科で学んだことを生かしながら自分の考えをまとめる（調査①）」ことへの意識が71.4%から80.6%へ伸びた。【図33】教師が教科との関連を意識して授業を構築することが、子どもたちに直結し、学んだことを活用しようという姿勢の育成となることがわかった。



(2) 視点2 子どもが本気で学びたいくなるような課題設定の工夫

学習内容を従来通りではなく、教師自身の挑戦も含め、社会や地域につながるリアルな課題を見つけ出し、課題の投げかけを行った。その結果、「社会や地域をよくするために何かしてみたいか（調査②）」という問いへの意識が64.3%から93.5%と飛躍的に伸びた。【図34】これは、子供自身が、地域に呼びかけたり提案をしたりする学習を継続して行っている結果である。学校内だけにとどまらず、社会や地域につながる・呼びかける提案型の授業を構築すると子どもは自ずと「何かしてみたい」と動き出すことが見えてきた。逆に言えば、私たち教師の課題設定力が問われていると言えるだろう。また、「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできているか（調査③）」という問いへの意識が78.8%から88.2%へと伸びた。【図35】これは、疑問が湧いたときに、どのようにしたらよいかという探究的な学習を継続し、4つのプロセス繰り返すことで、自分で学び方を考え工夫するようになることがわかった。

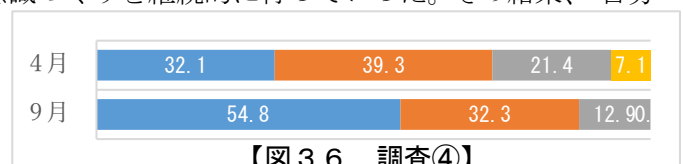


【図35】これは、疑問が湧いたときに、どのようにしたらよいかという探究的な学習を継続し、4つのプロセス繰り返すことで、自分で学び方を考え工夫するようになることがわかった。



(3) 視点3 協働的な学習となるような場の工夫

ICTの効果的な活用や班編成、共に学ぶ意識づくりを継続的に行っていった。その結果、「自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表する（調査④）」ことへの意識が、71.4%から87.1%に高まった。【図36】ロイロノートの共有ノートの効果的な活用、タブレットでの情報収集・整理、それらを共に見合い・間に合う姿勢づくりを子どもも教師も共に行ってきたことが、情報収集・活用能力への高まりにつながることがわかった。また、「授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる（調査⑤）」ことへの意識は、91.2%と変わらなかったが、「思う」と答えた児童が44.1%から58.8%へと伸びた。【図37】班で活動する場面が多く、協力しながら課題解決へ向かう姿勢が身に付いたことがわかる。



(4) 今後に向けて

各時間の終わりに振り返りは行い、互いの経過報告なども取り入れながら進めてはきたが、他校で取り組まれているような毎時間の自己評価・振り返りカードなどの取組が薄かった。今後は、さらにより効果的なカリキュラム編成を目指すと共に、評価にも力を入れていきたい。

7 おわりに

総合的な学習の時間において、社会や地域につながる課題を探究していくことは、主体的な学び
主体的に学び続ける児童を育成することにつながるということがわかった。このような姿を育成するためには、私たち教師の授業の創造力が問われる。「令和の日本型学校教育」でも求められていように、授業を創造する中で「個別最適な学び」と「協働的な学び」の往還は欠かせない。教科等の特質に応じ、地域・学校や児童生徒の実情を踏まえながら、授業の中で「個別最適な学び」の成果を「協働的な学び」に生かし、更にその成果を「個別最適な学び」に還元することは、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことに他ならない。私たちが今回、担任を中心とし関係職員で取り組んだ実践は、この一旦につながると信じている。さらに、一人一人の教師の力だけで学校現場が抱える多くの課題を解決することは困難なことも多いため、多様な専門性を有する質の高い教職員集団を形成し、組織の力で一人一人の児童に向き合っていくことの意義を改めて強く感じた。

「文部科学省『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）」に、「新たな教師の学びの姿」として、以下のことが挙げられている。

- 変化を前向きに受け止め、探究心を持ちつつ自律的に学ぶという「主体的な姿勢」
- 求められる知識技能が変わっていくことを意識した「継続的な学び」
- 新たな領域の専門性を身に付けるなど強みを伸ばすための、一人一人の教師の個性に即した「個別最適な学び」
- 他者との対話や振り返りの機会を確保した「協働的な学び」

上記の内容に多少なりともチャレンジできたのではないかと思う。今回は、この実践をまとめることで、「理論と実践の往還」の一部に挑戦した形でまとめさせていただいた。

これからも、周りの教職員や子どもと共に変化を楽しみながら、共に学び合う姿勢で、子どもたちの主体的な学びを大切にしながら、私たち教職員も主体的に学び続けていきたい。

8 引用・参考文献

- (1) 小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間 文部科学省
- (2) 田村 学『深い学び』東洋館出版社 2018年（平成30年）
- (3) 田村 学『「深い学び」を実現するカリキュラム・マネジメント』文溪堂 2019年
- (4) 文部科学省「今、求められる力を高める総合的な学習の時間の展開」令和3年3月
- (5) 田中 博史・盛山 隆雄 『子どもたちのために教師ができること』東洋館出版社 2024年（令和6年）
- (6) 文部科学省『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）令和4年12月19日

研究同人

中村 昌紀 ， 福田 早紀 ， 坂元 ゆみ